

日本近代文学館

公益財団法人
日本近代文学館

一目次

- 〔駒場ノート〕 歩みを窮めつつ 坂上 弘
- 〔随想〕 母と共に生きる 橋口 幸子
ということ
- 〔蔵書の中から〕 貴重書とは何か? 鈴木 道彦
- ◇谷崎潤一郎の新資料展 坂井セシル
- ◇川端康成が見出した作家たち
- 〔文学館年誌12号〕 宗像 和重
資料・人・研究
- 〔大宰治文庫目録増補版〕 刊行
「進化」する「太宰治文庫」 安藤 宏
- 〔文庫・記念館〕 国立ハンセン病 大高俊一郎
資料館
〔資料でたどる文学館の歩み〕
- 〔資料紹介〕 佐佐木信綱宛書簡

第54回「夏の文学教室」

二年の旧版刊行後二回にわたるご遺族から寄贈いただいた草稿断片などに加え、当館が所蔵する太宰治資料を総合的におさめた。A5判、三六頁、税込六四〇円（七面に紹介記事）。

夏の企画展、新講座も

「創立五十年」「開館五十年」と矢張り「教室」と「文学」をつなぐ」を兼ね、研究型文学館から貢献型文学館になることも志向している。

自由な心のはたらきから生まれる芸術、その一つとしての文学。若い世代の文学に接するよるこび、新たな「興味」と「感興」の誕生を、支えて行きたい。

私は大変感銘をうけるが、五十年前、川端康成さんは館の監事として、「設立の趣意」をこう語っておられる。

歩みを窮めつつ

坂上 弘

〔近代文学館の計画は大きく、出来上

ば、世界にも類のない、日本の誇りと思ふ。——近代文学館は文学の研究家や愛好家の便、一覽回顧の場、読書人の益ばかりではなく、若い博物館といふばかりではなく、若い人々を鼓舞して、明日の文学を誘発する所ともならう。〕

この精神を今こそ文学館の事業のあるべき姿、と銘じたい。

（館理事長）

谷崎潤一郎展開催中 記念対談も

館展示ホールでは、六月十日（土）まで、「新資料から見る谷崎潤一郎」創作ノート、日記を中心にして「展」を開催中。展覧会初出品となる創作ノート「松の木影」の印画紙や晩年の日記を軸に、谷崎作品の新たな魅力を紹介する。図録も好評発売中（B5判、四八頁、税込六四〇円）。

また五月三日には記念対談を開催、「谷崎潤一郎 デンジャラスな作家」をテーマに、作家の桐野夏生氏と本展編集委員の千葉俊二氏が登壇、会場は熱心な聴衆で賑わった。

なお川端康成記念室では「川端康成が見出した作家たち」を同時開催中（両展については四、五面に感想・紹介記事）。

三月理事会

三月十一日、定例の理事会が開かれ、二〇一七年度事業計画と収支予算案が審議され、承認された。

出席は坂上弘理事長、池内輝雄副理事長、中島国彦専務理事、安藤宏、江種満子、栗原敦、紅野謙介、細川興一、宗像和重、山崎一穎理事、安藤元雄監事。

総務に関する共同討議

三月十五日、全国文学館協議会の総務に関する共同討議が当館で開かれ、全国から十七館・二十一名が参加した。

大岡信元常務理事

四月五日、大岡信元常務理事が逝去された。八十六歳。一九七五年評議員、八六年理事、八九〇二〇一一年常務理事として、長く館の発展のために尽力された。

『太宰治文庫目録増補版』を刊行

四月二十日、館蔵資料目録第三十三集として『太宰治文庫目録増補版』を刊行した。一九九